



鉄スクラップ

9月に入りました。例年ですと残暑厳しい日々が続いているはずなのですが、今年は秋雨も早く、涼しい日々が続いています。これも異常気象の影響なののでしょうか？

さて鉄スクラップ相場も異常？な程下げ相場が続いています。関東の電炉は、6月後半より下げ相場に移行し、9月に入っても止まる気配が見えず、この先もまだ下がると思われます。例年ですと、秋の需要期に入る事から相場は上がっていくのですが、今年はそれも無く終わりそうです。

何故このような事が？となるのですが、世界的に見ると、確かにアメリカなどの景気は堅調な様ですが、もう一つの大国である中国が、先日行われたG20主要20カ国・地域財務相・中央銀行総裁会議上で中国自身が、「バブルが弾けた」という発言をした事から、中国の景気減速が改めて世界に発信されました。

元々中国は、一党独裁政治で、情報さえも管理し自分達の都合の良い事しか発表しない国です。どう見てもリーマンショック以降景気が減速しているのでは？と思える情報があちらこちらから入って来ていました。その代表例として、不動産バブルが挙げられます。都市開発を進める為、マンションなどが乱立していくのはいいのですが、住んでいる人はごくごく僅かで、ショッピングモールなどは閉鎖のままなどの映像がTVで流れたりもしました。中国が異変に気づいた時は遅く、鉄鋼の国内需要が落ちてきた時でも中々減産ができず製品価格だけが下がっていききました。そしてその過程で、半製品と言われるビレットを格安で世界に放出したのをきっかけにスクラップ価格が下がり始めました。それが今現在も継続中で、原油安や鉄鉱石価格などを見ましても、ちょっとやそっとじゃ戻らない雰囲気が出ています。そこに来て先日のG20での

中国の発言となった事から、それがより強く印象付けてしまったと考えられます。今後中国が内需拡大に向け何らかの対策を取るのは判りますが、不動産の状況を見ましても、先に書いた様な状況ですし、あまり期待できないと思えます。製鋼の減産にしても中々思い通り進まない事から相変わらず世界に安値販売で対応するでしょうから、そう簡単にはスクラップも上がるとは思えないと、考えていた方が無難だと思われます。又、反発する時もあるかと思いますが、天井価格のレンジは明らかに以前より下がった所になると思われます。リーマンショック以来の安値になりつつある中で、底値が何処で落ち着くのか？今はそこが一番のポイントといえるでしょう。日本はオリンピック景気があると思われるでしょうが、当業界でも昨年の賀詞交歓会での挨拶の中で、明るい雰囲気醸し出されていましたが、今年は一変して厳しい状況に変化しました。個人的には、オリンピック景気には元々期待してはいなかったもので、「ああやっぱね」位にしか思っていなかったのですが、今は更に悪くなるのでは？との意識の方が強いです。建築については、年内は期待できなさそうで、来年位には？との話が出ているようですが、これについても伸び伸びになって、そのまま何も無く終了という事にならなければいいのですが・・・。安倍さんも来年の消費税10%上げを早くも言っていますので、瞬間風速的に需要は上がるかもしれませんが、元々あった需要の先食いではない為、その後の反動減は覚悟が必要でしょう。賃金は確かに人手不足から上がるかもしれませんが、逆に高齢者世帯が増え、その人達が物価上昇+消費増税の中で消費を増やす事は期待しない方が良いでしょう。そう考えますと、日本の内需もあまり期待できないと言う結論に至ります。「狼が出る」という風に言われ死語の様になっていた昨今ですが、リーマンショックの時もそうだった様に、今回は、中国発の本当の狼が出るかもしれません。

で何処が底値？となるのですが、個人的にはあと1～2円位で、中国発の本当の狼が出ると、どれ位下がるか、ちょっと想像もできません。瞬間風速にしても、スクラップの需要が無くなる事態もあるかもしれません。「余り物に値段無し」、こんな言葉が久々に頭をよぎるこの頃です。今は中国に頑張ってもら、ただただ、それだけです。

コラム

春頃から感じていたのですが、季節が感覚的に1か月程早く巡っている気がしています。そうなりますと、今は10月位に当たり、冬も早く巡ってくるかもしれません。対処療法的に対応できるよう、服装にも気を付けていた方が良さそうです。